

第 711 回

日本小児科学会東京都地方会講話会

プログラム

日 時： 2026年1月10日(土) 午後2時00分

開催会場： アットビジネスセンターハ重洲 501号室

* 講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備 考
1,000 円	小児科領域講習 1 単位 (iii貼付用) 学術集会参加単位 (iv-B 貼付用)	* 単位を取得するためには教育講演 全ての聴講が必要 (60 分)



【会場アクセス】

- JR 東京駅（八重洲口）より徒歩約 10 分
- 日比谷線 八丁堀駅より徒歩 2 分
 - ※ 日比谷線八丁堀駅（A5 出口）
 - アットビジネスセンターハ重洲 501 号室
- 東京都中央区八丁堀 1-9-8 八重洲通ハタビル 5・6 階
- ※ 建物の外観：ガラスカーテンウォール
- ※ 看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会長：水野 克己（昭和医科大学医学部小児科主任教授）
主幹校：昭和医科大学医学部小児科 担当：阿部 祥英
連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp
※ 講話会中の緊急のご連絡は会場 03-6627-2151 まで

東京都地方会 HP : <https://jpeds-tokyo.com/>



第711回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

(1題6分、指定発言5分、追加討論3分以内厳守のこと)
『プログラム係 順天堂大学医学部小児科学講座 東海林 宏道』

一般演題(1) 14:00-14:40 座長 草野 晋平(順天堂大学医学部附属順天堂医院 小児科・思春期科)

1) 妊娠を契機に後天性血友病Aを発症した母体から出生し一過性血液凝固第VIII因子欠乏症をきたした新生児

○李 彩佳、土方 みどり、四宮田 悠、向井 千尋、佐藤 優希、呉 英俊、中原 衣里菜、
田村 豪良、今泉 隆行、不破 一将、金澤 剛二、長野 伸彦、岡橋 彩、森岡 一朗

(日本大学 小児科)

日齢0男児。妊娠を契機に後天性血友病Aを発症した母体から出生した。出生時APTT延長、第VIII因子(FVIII)欠乏とインヒビター高値を認めたが、出血傾向はなかった。日齢5のクロスマキシング試験はインヒビターパターンを呈した。無治療経過観察したところ、日齢13にインヒビターが消失し、その後FVIII活性は上昇しAPTTは日齢20に正常化した。インヒビターが経胎盤的に母体から移行し、FVIII欠乏をきたしたと考えられた。

○指定発言 下澤 克宜(日本大学 小児科)

2) 骨痛を主訴に受診したびまん性大細胞型B細胞リンパ腫の1例

○山崎 麻衣^{1,2)}、益田 博司¹⁾、永井 章¹⁾、金 裕花³⁾、山部 文子³⁾、宮寄 治⁴⁾、窪田 満¹⁾、
庄司 健介^{2,5)}

(¹) 国立成育医療研究センター 総合診療部、²⁾ 同 教育研修センター、³⁾ 同 小児がんセンター、
⁴⁾ 同 放射線診療部、⁵⁾ 同 感染症科)

7歳男児。入院4か月前から左頸部リンパ節腫脹を認め、前医で穿刺吸引細胞診が行われたが確定診断が困難であった。入院2か月前から腰部～大腿部痛が出現し、当院を受診した。MRIで多発骨病変を認め、当院でリンパ節生検を行い、組織診とフローサイトメトリーの結果、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫と診断した。リンパ節腫脹や骨痛が持続する際は、リンパ腫を含む悪性疾患を考えて組織診に進むことが重要である。

○指定発言 牛腸 義宏(国立成育医療研究センター 血液腫瘍科)

3) T細胞性リンパ芽球性白血病治療中に腰背部痛で発症した播種性水痘帯状疱疹ウイルス感染症の1例

○松田 ひより¹⁾、多湖 孟祐²⁾、草野 晋平²⁾、藤原 恵²⁾、谷口 明徳²⁾、石橋 武士²⁾、富田 理²⁾、
藤村 純也²⁾、東海林 宏道²⁾

(¹) 順天堂大学医学部附属 練馬病院臨床研修センター、²⁾ 同 順天堂医院小児科・思春期科)

16歳男子。T細胞性リンパ芽球性白血病に対し化学療法中であった。激しい腹痛、触れるしづれのような腰背部痛を訴え、2日後に水疱が全身に出現した。各種検査で播種性帯状疱疹と診断した。肝障害や呼吸窮迫症候群のため血漿交換や人工呼吸器管理など集中治療を要した。免疫不全患者の水痘帯状疱疹ウイルス感染症は、皮疹に先行して激しい腹痛や腰背部痛など非特異的な症状で発症し、重症化するがあるため注意を要する。

一般演題（2）14：40－15：10 座長 高安 博史（江東病院 小児科）

4) 哺乳不良から診断に至った偽性低アルドステロン症の1例

○村上 美佐子、千田 理絵、小笠原 このみ、新村 啓、松永 理、中野 英太郎、鈴木 崇、税所 純也、堤 範音、柏木 保代、山中 岳

(東京医科大学病院 小児科・思春期科)

日齢4の女児。哺乳不良で当院に入院した。兄が偽性低アルドステロン症1型（腎臓型）である。入院後、経管栄養を開始したが体重増加は不良で、軽微な血中Na低下、K上昇がありNaCl内服を開始した。開始後、電解質は正常化し、レニン・アルドステロンの高値を認め、兄と同疾患と診断した。家族歴から本疾患を想定し、早期介入したことで著明な電解質異常をきたすことなく退院できた。

5) 免疫不全を伴わない思春期女児に発症した耳介帯状疱疹合併水痘帯状疱疹ウイルス髄膜炎

○水町 桜子、平野 大志、花輪 和、坂口 晴英、新村 南、角皆 季樹、大石 公彦

(東京慈恵会医科大学 小児科学講座)

13歳女子。耳介に水疱が出現し、翌日から発熱、頭痛、嘔気が出現した。近医で水疱から水痘帯状疱疹ウイルス(VZV)が検出され、当院を紹介された。髄液検査で単核球優位の細胞数增多、マルチプレックスPCR検査でVZVが検出された。アシクロビル点滴静注により髄膜炎は速やかに改善した。生来健康な小児の帯状疱疹においても中枢神経系合併症の可能性を念頭に置き、全身症状を伴う場合には髄液検査での評価が重要である。

6) 診断前に失神を経験した肺動脈性肺高血圧症例の検討

○本間 淳騎¹⁾、柏木 菜緒²⁾、田中 里奈²⁾、山口 洋平²⁾、櫻井 牧人²⁾、石井 卓²⁾、高木 正稔²⁾
(¹⁾ 東京科学大学病院 総合教育研修センター、²⁾ 同 発生発達病態学分野（小児科）

当院で加療中の肺動脈性肺高血圧(PAH)のうち6例が診断前に失神を経験していた。失神時の年齢は6～11歳で、全て労作時あるいは運動時であった。初回受診時、全例で頭部画像検査が行われたが、胸部エックス線・心電図検査は3例のみであった。初回受診時にPAHと診断されたのは2例で、他はてんかんや神経調整性失神と診断された。PAHは早期診断が重要であり、労作時失神では循環器系スクリーニング検査が必要である。

* * 休 憩 15：10－15：20 *

感染症だより 15：20－15：35 (講演：15分)

講師 北村 則子（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所
感染症疫学センター・予防接種研究部併任）

共催セミナー 15：35 – 16：15 (講演：40分)

「小児慢性便秘症診療のコツ—年齢で変わる便秘の病態とその対処法—」

座長 安達 昌功 (昭和医科大学病院 小児科)

講師 水上 健 (国立病院機構久里浜医療センター 内視鏡部長)

本年、小児慢性機能性便秘症診療ガイドライン 2025 が発刊され、小児便秘を「便が滞った、または便がでにくい状態である」と定義した。便秘は幼児によくみられるが就学児で減り、一方で小児から成人への移行が問題となる病名だけではわかりにくい一面がある。

全年齢対象の慢性便秘症診療経験から、年齢で変わる便秘の病態とその対処法につき腹部 X 線など画像検査を用いて解説する。

共催：東亜新薬株式会社

* * 休憩 16：15 – 16：25 *

教育講演 16：25 – 17：30 (講演：60分 + 質疑応答：5分) 小児科領域講習 1単位

「5歳児健診のススメ—現状と小児科医の役割」

座長 齋田 満 (国立成育医療研究センター 総合診療部)

講師 三牧正和 (帝京大学医学部 小児科学講座)

5歳児健診は、こども家庭庁の補助金を背景に全国展開が進められていますが、実施率は十分ではなく、東京都でも課題になっています。本講演では、健診の意義や現状に加え、実際の進め方や評価のポイントを紹介します。自治体と小児科医が協力して健診体制を発展させることが、地域の子育て力を高め、小児科医が disease-oriented な医療に加えて子どもと家庭の well-being を支える存在となる契機になることを、ともに考えたいと思います。

演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。

【東京都地方会 HP】 <https://jpeds-tokyo.com/>



◆ 2025 年度 & 2026 年度 講話会予定（会場開催のみ） ◆

■ 2025 年度

講話会	日 程	会 場	備 考
第 712 回	2026 年 2 月 14 日（土）	アットビジネスセンター八重洲通	※演題締切 2026 年 1 月 20 日
第 713 回	2026 年 3 月 14 日（土）		※演題締切 2026 年 1 月 20 日

※毎年 2・3 月は演題申込が多いため、お早目にお申込みください。

※申込演題が規定数を上回った場合、さらに 1 回先になることがありますのでご了承ください。

その場合事務局よりご連絡致します。

■ 2026 年度

△ 6 月 13 日（土）の講話会会場のみ東京慈恵会医科大学内での開催となります△

お間違いのないようにご注意ください

講話会	日 程	会 場	備 考
第 714 回	2026 年 6 月 13 日（土）	東京慈恵会医科大学 2 号館 1 階講堂 (港区西新橋 3-25-8)	※演題締切 2026 年 4 月 20 日
第 715 回	2026 年 7 月 11 日（土）		※演題締切 2026 年 5 月 20 日
第 716 回	2026 年 9 月 12 日（土）		※演題締切 2026 年 6 月 20 日
第 717 回	2026 年 10 月 10 日（土）		※演題締切 2026 年 8 月 20 日
第 718 回	2026 年 12 月 12 日（土）		※演題締切 2026 年 9 月 20 日
第 719 回	2027 年 1 月 9 日（土）		※演題締切 2026 年 11 月 20 日
第 720 回	2027 年 2 月 13 日（土）		※演題締切 2026 年 12 月 20 日
第 721 回	2027 年 3 月 13 日（土）		※演題締切 2027 年 1 月 20 日

* 4, 5, 8, 11 月は休会

■ 小児診療初期対応（JPLS）開催予定

日本小児科学会と東京都地方会の共催で小児診療初期対応（Japan Pediatric Life Support : JPLS）を 2025 年度は年間 3 回の開催が予定されております。（1 回目は日本大学にて 12 月 7 日に終了）

取得単位：小児科専門医（新制度）更新単位 ⅲ 小児科領域講習 3 単位

開催日程	会 場	申込開始時期
2026 年 2 月 7 日（土）	国立成育医療研究センター	※申込終了（満員御礼）
2026 年 2 月 8 日（日）	国立成育医療研究センター	

2026 年度の東京での開催予定につきましては、順次お知らせさせていただきます。

申し込み先：日本小児科学会 HP ※ 2026 年度 開催日時と会場はアップされています

https://www.jpeds.or.jp/modulesactivity/index.php?content_id=221

◆ 会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ ◆

【日本小児科学会東京都地方会幹事選挙について】

日本小児科学会東京都地方会幹事選挙において、次期幹事立候補書が 93 名であったため、幹事選挙施行細則第 5 条により補欠選挙は行わず、同第 9 条により全員当選となりました。次期幹事（2026、2027 年度）一覧及び詳細は地方会ホームページお知らせ欄よりご確認ください。

なお、現幹事による幹事会を 2026 年 2 月 14 日講話会後にハイブリッド形式で開催予定です。

【2025 年会費納入について】

2024 年度より年会費が 8,000 円となっております。

年会費納入のお知らせをメールおよびホームページにてご案内しております。

2025 年度会費及び 2024 年度・2023 年度 会費未納の方は【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。

* 3 年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。

* 会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

* 講話会当日、会場受付にて年会費をお支払いいただくことも可能です。お気軽にお声かけください。

【年会費免除申請について】

学部学生（大学院生は除く）および、初期臨床研修医は年会費および講話会会場費は免除とします。

学部学生は学生証、初期臨床研修医は職員証（写）と年会費免除申請書（東京都地方会ホームページよりダウンロード可）を事務局に申請してください。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】

東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認お願いいたします。

ご不明な点がございましたら運営事務局までご連絡をお願いいたします。

【主幹校（会長校）】昭和医科大学医学部小児科

【東京都地方会 HP】

【運営事務局】日本大学医学部小児科

<https://jpeds-tokyo.com/>

【主幹校／運営事務局 共通アドレス】



✉ jpstokyo-office@umin.ac.jp